

## 大学院入試経験談

2017 院進 A クラス 米建芬

早稲田大学で勉学することは私にとって長年の夢の一つです。それを実現するために、大学卒業後、私は一年半をかけて自分の中の不安との格闘に勝ち、故郷を離れ、日本へ留学することを決めました。私の場合は、「不忘初心，方得始终」で進学道のりを締めくくることができるでしょう。

私は中国の大学で日本語と金融を専攻していたものの、卒業後は日本語を使う機会が少なく、2016年の1月に亜細亜友之会外語学院に入学し、自分の日本語能力を高めるのと同時に、進学の準備を整えることにしました。約五百日の努力、及び先生方と友だちのご指導と励ましのおかげで、私は10月に明治大学の政治経済研究科と早稲田大学の社会科学研究科に合格することができました。ここで、私の経験を皆さんと共有したいと思います。

まず、日本語能力のレベルについてです。優れた日本語能力を持っていれば、評価の良い大学への進学に有利です。来日前、私はN2級合格しか達成できず、その上大学卒業後の一年半の間に日本語を使う機会がなかなかなかったため、学んだ日本語のほとんどを忘れてしまいました。亜細亜友之会外語学院での勉学を通じて、忘れかけた日本語の復習ができて、上級レベルの学習へ進むことができました。先生方のおかげで2016年7月にN1に合格することができました。先生方による丁寧なご指導、並びにユーモアセンス満載の授業を通して、日本語の基礎だけでなく、日本文化や日本人の考え方に対する理解を深めることができました。日本語学校での勉強は、日本語だけではなく、日本社会と文化への理解を深める良い機会だと私は思います。

専攻の経済学につままして、私は、大学でミクロとマクロ経済学を履修したことがあるものの、日本の大学院レベルの経済学知識との差が大きいことに気づきました。勉強時間の分配と学習効率の向上に私は注目しました。N1級合格した後、私はほとんどの時間をミクロとマクロ経済学の勉強に費やしました。私が志望した2校の入試は小論文形式でした。学んだ経済学知識を用いて、日本語で自分の考えを述べないとならないです。宮原先生によるご指導のおかげで、私は小論文を攻略することができました。研究計画書に関しましては、計量経済学の知識を事前に習得すれば、先行研究への理解と研究計画書の作成に有利だと思います。大澤先生に何回も研究計画書の添削をしていただいたおかげで、より自然な日本語文書で計画書を書くことができました。ここで大澤先生に御礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

進学の道のはいはらの道です。辛くてあきらめると思ったときは多々ありました。しかし、そういうときは自分の夢を思い出し、また頑張れる気持ちになりました。いつも私を励まし、サポートをくださった先生方と友だちに感謝したいです。また、あきらめなかった自分にも感謝したいです。これから、さらに上を目指すことができたようにも思えました。辛いことがたくさんあると思います。しかし、あきらめずに頑張っていけば、道が必ず開けることを私は信じています。